パラグラフリーディングを始めよう！

「かなり単語は覚えたし，文法もそこそこわかってきた。でもなかなか長文を速く読めるようにならない」

「一文一文の構造や意味はある程度わかるんだけど，長い英文を読んだ後になると結局どんな内容なのかわからなくなる」

「問題を解くときはカンに頼ってなんとなくやっているだけ。こんな調子で問題をたくさん解いても意味ないんじゃないかなあ…」

こういった悩みを持つ受験生は全国に数多くいるはずです。

そんな悩みを持つ受験生に対して，ある講師は「英文を速く読みたいんだって？　それじゃあとにかく英文を読んで読んで読みまくりなさい。速読はまず慣れることだ」と言い，それを真に受けたまじめな受験生は日々とにかく数多く読むという物量作戦で失敗しています。

またある受験生は「速読＝速く全訳を作成すること」と勘違いし，とにかく速く構文を取るトレーニングを積み，またある受験生は英文にスラッシュを打ち込むことが速読のすべてだと勘違いし，ひたすらスラッシュの打ち込みトレーニングを行っています。

予備校の現場でそのような受験生を目の当たりにするにつけ，**「論理的な速読の方法論をわかりやすく提示してあげたい」**という思いを日頃からつのらせていました。そういった気持ちの集大成がこの本なのです。

本書は**「パラグラフリーディング」**を体系的に教えることによって，皆さんに正しい速読の方法論を身につけてもらうことを大目標に掲げています。

第2章　パラグラフの基本4原則を知ろう！

みんなは『パラグラフ』というのは何のことだか知ってるかい？　「現代文で言う『段落』みたいなものじゃないの？　でも，あまり気にせず読んでるよ」という声が聞こえてきそうだけれど，**パラグラフは，英語の長文，特に評論文を読むときには絶対に注目しなければならない，とても大切なもの**なんだ。

先ほど述べたように，**評論文には必ず英文全体のテーマが存在し**，そのテーマについて筆者は自分の考えを述べていくのだけれど，その際に**英語の世界では，日本語以上に「パラグラフ」を強く意識して論理を展開**していくんだ。

それではまず最初に，評論文における**パラグラフの4つの原則**を挙げておくから，しっかりと頭に入れておこう。

◀パラグラフの基本4原則▶

その1　パラグラフとは筆者のイイタイコトのまとまりである。
その2　1つのパラグラフでは筆者のイイタイコトは1つ。
その3　パラグラフが変われば筆者のイイタイコトも変わる。
その4　パラグラフ同士は互いにつながりを持ち英文全体を構成する。

パラグラフにこんな特徴があるとわかったらこれからどんなトレーニングをすればいいかおのずとわかってくるよね。そう「**1つのパラグラフで筆者のイイタイコトが1つ**」出てくるのだから，**パラグラフを1つ読むごとに立ち止まり，「このパラグラフでの筆者のイイタイコトはこうだ」と実感していくことを意識づける**といいんだ。

「第1パラグラフはこういう話で，第2パラグラフではこう展開したな。次の第3パラグラフではこう述べてるぞ。…だから英文全体は結局こんな話をしてるんだな」

というように，パラグラフというまとまりに着目して，大きな流れをすばやくつかむトレーニングをしていくことが重要だ。

▶基本ストラテジー２◀

論理マーカーに着目せよ！

ここまでで「パラグラフリーディング」とは，一文一文をばらばらに全訳していくことよりも，英文全体のテーマやそれに対する筆者の最終的な主張，そのもととなるパラグラフごとの筆者のイイタイコトを，英語の評論文によく出てくる論理展開を利用して見抜くことを重視したリーディング方法だとわかったね。さらにここではそれを効率よく行うために「論理マーカー」を利用する方法論を解説するよ。

さて「論理マーカー」とはいったいなんだろう。それは論理展開を明確に示す「つなぎ言葉」のことなんだ。次の日本語を見てみよう。

「現代では森林が大変なスピードで破壊されている。例えば…」

ここで最後の「例えば」に着目しよう。この日本語から，「…」部分には直前文の内容である「森林破壊」について具体的に述べる内容がくることがわかるよね。つまり「例えば」という語句は，基本ストラテジー１で述べた「抽象⇒具体」の論理展開を明確に示す語句となっているね。このように日本語における「例えば」にあたる，英語の for example といった語句を「具体例を表す論理マーカー」すなわち「具体例マーカー」と呼ぶことにしよう。

このような「論理マーカー」は英文を速く正確に読むためには，大きな武器になることは当然のことだね。

先ほどの例から「具体例マーカー」を省いた次の日本語を見てみよう。

「現代では森林が大変なスピードで破壊されている。…」

この文を見ても「…」部分には，どんな内容がくるか全く予想がつかないね。「例えば」があるのとないのとでは，読み方が大きく違ってくるのがわかるだろう。

論理マーカーは次に挙げる５つに大きく大別される。まずここでは「論理展開を明示するマーカーに着目することは非常に重要で，そのマーカーは５つあるんだな」とわかってもらえればそれでいい。

マーカー1 対比・逆接マーカー

あるテーマを決めて議論をする場合には，そのテーマについて同じ話ばかりがくどくどと出てくると，読んでいていやになっちゃうよね。それよりもそのテーマと対照的な別の事柄を挙げて，２つの事柄を比べて議論した方が，読者にはわかりやすいし，何よりも説得力が増すことがよくある。同様に評論文でも対照的な２つの事柄を並べて説明したり，テーマとは逆の状況を合わせて述べることでテーマを際立たせたりすることがよくあるんだね。

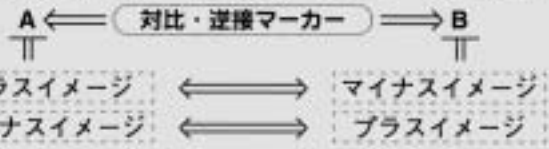
このような際に出てくる「論理マーカー」が**「対比・逆接マーカー」**だ。**「対比・逆接」というのは，日本語で言う「一方」とか「しかし」という系列に属するもの**，つまり英語で言えばon the other handやbutといったものにあたる。

ところが世の中の受験生はon the other handやbutなんかを見ても「一方」とか「しかし」と訳すだけで，実はこの表現に，英文を速く正確に読むエッセンスや，問題を楽に解くポイントが含まれていることを知らないまま読み飛ばしているんだね。それははっきり言って大きな損失だ。

では「対比・逆接マーカー」にはどんな働きがあるのだろう。
２つの重要ポイントを整理してみよう。

◆対比・逆接マーカーのポイント

対比・逆接マーカーの前後では文意が逆転することが多い！
⇒文意をプラス(＋)・マイナス(－)のイメージで理解しておくと便利



「対比・逆接マーカー」で注意したいのは，**マーカーの前後の文意が対照的な内容になることだ**。例えば「日本では女性が職業上差別されている」ということを述べる場合を考えてみよう。そういう場合に，日本での事柄ばかりを述べるより，それと対照的な事例，例えばアメリカでの例を挙げ，「アメリカでは女性の職業差別は少ない。一方日本では…」とか「アメリカでは女性の職業差別は少ない。しかしながら日本では…」というように説明する方が，説得力が増すことがわかるよね。